

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No.107

2012年1月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



頑張れ日本！

うしく里山の会

代表理事 坂

弘毅

写真 坂 弘毅

明るい夜明け

平成二十四年、新たな年の幕開けとなりました。昨年は未曾有の東日本大震災が東北地方を中心に史上空前の大災害となつて多くの尊い命が奪われました。地震から九ヶ月が経過しましたが、復興はまだ緒についたばかりです。被災地の方々には、苦しい生活が強いられています。一日も早い復興をお祈りいたします。

地震直後の災害支援では、里山の会として牛久市に協力し宮城県の亘理町に災害派遣、ならびに牛久市の避難所開設に協力して参りました。

牛久では地震による大きな被害はありませんでしたが、その後の福島原発の事故で、牛久の東部地域がホットスポットとなつてしまいました。私もうしく里山の会の最大の活動拠点である牛久自然観察の森でも、線量の高い場所があり、来園者も例年の六〇%と低迷する事態になりました。里山の会の最大のイベントである例年十月の「うしく里山秋まつり」も中止を余儀なくされました。

里山の会は来園するお客様に安全・安心な環境を提供するため、職員と会の有志によつて除染作業を進めております。現時点では園路を含め、お客様の立ち入る場所については、重機を導入して除染を終えております。今後は、残りの除染を進め、早期に観察の森の安全宣言を出したいと考えております。

平成二十四年の辰年の特徴は、「正義感と信用」という今の日本からはかけ離れたものが来年の辰年の特徴だそうですが、里山の会は「謙虚と誠実」をモットーに、定款に定められた各種事業を丁寧に処理して参りたいと考えております。

平成二十四年、皆様にとって最良の年になりますよう祈念いたします。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告

親子で農業体験



親子農業体験講座

一般参加者 久保 直史

今年もついにやってきました、秋蕎麦の季節。昨年も娘と二人で参加して蕎麦の味に感動して以来、待ちに待っていた蕎麦打ち体験です。

八月末の種まき。この日は参加者がいつもより少なく、少し心配しましたが、前日にスタッフの飯田さんが草刈をしてくれていたことや、娘が今年一番の活躍をしてくれたおかげで、無事に終了しました。

十一月初めの刈り取り。十月後半の毎週降る雨の影響で刈り取り時期が遅くなりましたが、今年もたくさん収穫できました。実落としては雨の影響もあり、なかなか作業がはかどらず、初の連日作業となりました。参加者が少ない中、単調な作業を黙々とこなす作業でしたが、ここでも娘が活躍してくれ、せっかく刈り取った蕎麦を無駄にすることなく、全ての実落としが完了しました。昨年も参加していたこともあり、六才の娘も畑作業に慣れてきたようです。

手の抜き方も少しずつ覚えてきました(笑)。実を天日干し後、唐箕かけ。子供たちが一番楽しい作業でしょうか。目の輝きが違います。そして十二月初めの蕎麦打ち。先生に教えてもらいながら、親子で楽しく蕎麦打ち体験。先生のように上手にはできないものの、それなりの(笑)蕎麦が出来上がりました。

各親子「それぞれの」、そして「それなりの」がこの親子体験講座の醍醐味だと思います。親子で何杯もおかわりをしました。娘は先生から水蕎麦を教えてもらい、それ以降、ツユなしで食べ続けていました。この味、この体験、もうヤミツキです。やめられそうにありません。

東日本大震災当日のこの講座申し込みに始まり、やがて、原発事故の影響が牛久にまで及んでいる

ことが判明。この講座そのものの継続すら危ぶまれました。今年ほど食の安全について考えたことはありませんでした。また、放射線というものを娘にどのようにか教えればいいのか悩みました。幸い、収穫した作物(じゃがいも、さつまいも、里芋、蕎麦)の放射線量は問題なく、また、畑等の作業する場所の放射線量も毎回測定していただき、安心して作業をすることもできました。

平日は日付が変わる頃に帰宅するため、日ごろ娘と触れ合う時間が少なく、父娘での畑作業は娘と触れ合う重要な日課となっています。娘の成長を目の当たりにし、幸せを感じながら、親としても成長させてもらっています。一年間、ありがとうございました。来年もぜひ、、、。



親子で楽しいそば打ち

街路樹

チーム街路樹20 受託事業報告

横山 さえ子

街路樹の研修・見学会(その二)

長瀬ライン下りは、夏が旬と思っていました。が紅葉の秋も乙なものでした。親鼻橋(おやはなばし)から岩畳までの三十分ほどの船旅です。

湯水期で水が少なく、出発してすぐガガガッーと船底を岩がこする音がしました。Hさんが「あっ!! 水が・・・。」と冗談で言ったら、船頭さんがキッ

とした表情で振り返りました。うしろからはもう一人の船頭さんもまわりの風景のみどころを話しているのがとぎれとぎれ聞こえます。「岩にかくれて、長瀬下り、船は瀬まかせ、主まかせ」

おみやげ屋さんで一袋二百円で鬼ぐるみを買ってました。他の場所もあるだろうと思っていました。が、ありませんでした。買ってあげばよかった。

ここからすぐの宝登山（ほどさん）神社を参拝しました。みごとに紅葉したイチヨウもありません。

屋根からの雨水をうける地面に、丸いものがたくさん並んで埋まっています。溝もほってあります。よくよくみるとまん中に穴もあり、石うすでした。

よくもまあこんなにたくさん。わざわざ寄進を頼んだのでしょうか、不思議でした。

宝登山は冬の口ウバイが有名で、登山にも手ごろ、ロープウェイもあるので誰でも登れる山とのことです。

その後はホテルで夕食と楽しい宴会、皆十分に堪能したようです。二次会も大いに盛り上がったそうです。

十一月九日（水） 国営武蔵丘陵森林公園。国営と国立の違いは？土地を国がもっているのが、「国営」とのことです。

入場料が六十五才以上は半額。大半が該当するのですぐに利用しました。入ると両側にアートイルミネーションの作品が多数あります。竹に穴をあけたものや背の高いコップなどにライトが入れられています。美しく輝くだろう夜に見てみたいものでした。公園全体のパンフレットのほかに、都市緑化植物園の立派なパンフレットも用意されています。重要な施設なのでしょう。



この植物園の園長さんが、里山の会のためレジュメを作って待っていてくれました。

「今一度見直す里山、その魅了」のテーマで、スライドを見ながらお話を伺いました。

里山の特徴は再生力である。実生にはない株からの再生がすばらしく、安定した成長をする。生産性が高いと二酸化炭素の吸収量も多い。しかし現在は、化石燃料（L・Pガス）、化学肥料の普及、その他の理由で、生業（なりわい）として、山仕事になりたない。多くの里山がヤブになってしまった。子どもたちも大人も山で遊ばなくなり、関わりなくなつた。

里山から離れた人を、里山に目を向けさせるのはなかなか難しい。竹を伐採しても、利用ができない。山の管理は古

老に聞く。言い習わしにあらわれている。モヤワケ、四方太刀、通り切り、株はがれなど。伐採は十二月から翌春で「春の彼岸以降は木を切るな」という。

今は里山に関わる目的を失っている。以上のような話を伺って、心もとない思いをしました。園内を案内してもらい、自分の理想とする公園作りも実現されている様子も話されましたが、三月には定年とのことでした。昼食は園長推薦の料亭の江戸弁当、彩り美しく、味も上品なすてきなものでした。



里山管理の特別講座に聞き入るメンバー

管理活動に参加して

十一月二十六日（土）、初冬のよく晴れた日に「牛久町八坂神社、柏田町長泉寺、上柏田日枝神社」の三ヶ所の管理作業を巨木リサーチ2事業のメンバー六名で行いました。

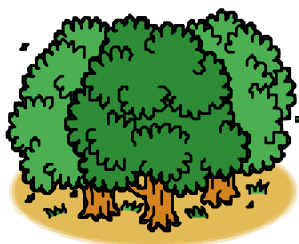
朝八時三十分には市役所玄関前に集合し、作業手順等を確認後、車に乗り合わせて出発しました。

最初は八坂神社です。到着すると両脇に大木が並ぶ薄暗い歴史を感じさせる参道がありました。作業衣姿の方が一人でその参道をほうきで掃いています。当番で月に一度の割合で掃除をされるそうです。最近では参拝者が減り、掃除をしても寂しいとおっしゃっていました。

私たちは奥へと進み境内の裏の笹刈り、キツタ及び小枝の除去をしました。早朝のまだ肌寒い中、作業をしているうちに身体はぼかぼかと暖かくなり、日の光も増してきて、作業場所は明るくキラキラと輝いています。もう少しきれいにしたいという羽賀さんの気持ちを皆が共有し、後ろ髪を引かれながら作業を終了しました。

次に向かったのは長泉寺です。そこはソメイヨシノの大木一本が作業対象です。前回ソメイヨシノに絡みつくキツタを剥ぎ取ったり、下草を刈ったりして間もないので短時間で終わる予定です。長泉寺に到着後、私たち四人は渡辺さんと戸塚さんを駐車場で待っていました。

ところがまだ到着していないはずの二人がソメイヨシノの方から歩いてきました。



巨木リサーチ2事業報告

内田 智子

実は二人は先に着いていて、すでに作業を終えて戻ってきたのです。管理が行き届いていると、その後のメンテナンスは容易になると思いました。



上柏田 日枝神社境内の「市民の木No.6スダジイ」の前で 戸塚 11.10.26

最後に向かったのは日枝神社です。ここはマダケがはびこり、参道の木々が竹に囲まれてしまっています。前回の作業でウワミズガラとスダジイが見えるようになりました。光がよく当たるようになったのでウワミズガラたちが元気になっているようです。今回はその木々の下草刈り及び整備を行いました。横を見るとまだ竹に囲まれている参道の大木たちが順番を待っています。来年の春にはヤブツバキとカヤの生えている辺りの竹の伐採を行う予定です。

私は今年から管理作業に参加させていただき、自然に対して人間がほんの少し加勢するだけで美しい里山風景が保たれることを実感しました。そして、それは同時に私たち人間の心が和む場であることも。これからも美しい風景がよみがえるよう、皆で力を合わせて管理作業を継続していきたいと思っています。



あやの受託事業報告

赤荻 卓

情報交換と交流の場

十二月に入って冬至が近づいているせいか、夜明けが極端に遅く、めっきり寒さが身にしみるようになった。

私がアヤマメ園のプロジェクト（以下アヤマメ）に参加してはや半年が経とうとしている。最近の作業は冬の訪れとともに、猛暑の頃に比べずいぶん楽になってきた。相変わらず除草が中心だが、背の高い草を引っこ抜く作業はなく、背が低く地にへばりついたものを力マの先でこそぎ取るといった表現のほうが適切である。

私は六十歳で定年になった後も、引き続き第二の会社に入社し、昨年の五月末まで勤務していた。六十を過ぎた頃から完全リタイアしたあかつきには何をしたら良いか折にふれて考え悩んできた。会社のOB仲間や先輩諸氏にも相談したところ、単純ではあるが「地元に戻り地元の人の人とふれ合う」ことが大切だとの結論を得た。四十二年間にわたり参み込んだ会社人間根性を一掃する必要を感じていた。その一環というわけではないが、三年前から牛久市社会福祉協議会主催の「シルバー男性料理教室」に入会し、今でも毎月一回慣れない手つきで調理しそれを食し、仲間の人たちと交流を深めている。

アヤマメに参加したのは、一昨年十月及び十一月に景観まちづくりネットワーク主催の「絵地図講座」を受講した際、たまたまアヤマメのSさんと同じグループになり、熱心に勧められたからである。「週二回、午前中のみ」というところに大いに惹かれたのである。一方で近所の方から「リタイアしたら畑をやりませんか？」という誘いも受けていて、その方の畑を見学させていただき心も少なからず動いたのだが、スタートが七月ともなると、種まき・苗の植え付けや野菜の収穫よりもいきなり除草の仕事

が優先事項になることから、まずはアヤマメで除草に慣れておいてからでも遅くないと、自分なりに勝手に判断したのである。

半年間を振り返ってみると、除草・株分け・畝作りといった作業のうち最もきつかったのは「畝作り」だ。スコップやクワなど道具の使い方に慣れるまでかなり時間がかかったこと、先輩諸氏に合わせて張り切ると途中で息が上がってペースダウンしてしまつたこと。この作業は今夏のことを思うと完全に不安が払拭されたわけではなく、他の皆さんにご迷惑をかけることになるのではと懸念している。

しかしながら、全員が黙々と作業に没頭しながら口のほうは適宜動かしてお互いに情報交換をする場になっているのは微笑ましい。例えば、TV番組のこと、健康や介護に関すること（男性の一部では前立腺肥大症の経験者が多いということが判明した）、政治・経済のことなど話題はつきない。同じ仲間が富士山に登頂したり、バスハイクに出かけたり、アヤマメが交流の礎となっている。私も十一月下旬に他の三人と土浦CCでゴルフに興じた。

一月中はアヤマメもお休み。二月から再開するのだが、この時期の作業は私にとって初めての経験だ。凍てつくたんぼとの戦いをどのように乗り切るか、期待と不安が交錯している。



黙々と除草に励むメンバーの姿



雑木林応援隊

竹越 直美

森で思うこと

今年も無事暮れようとしています。応援隊はこの一年「新年を炭焼きで」から始まり暑い盛り「藍の生葉染め」そして深まった秋の中での「つるかご編み教室」と三回の公開講座を開いて来ました。広報で募集しての講座は何年前からでしょうか。何回かの数をこなしていることはメンバーのそれぞれが自分の持ち場、やる事を心得ているということ。教える立場であったり補助であったり味噌汁づくりであったり火の番であったり。誰に言われる事もなくそれぞれの持ち場へ。

講座はスムーズに流れて最後は今日一日の作品を手喜んでくれる参加者の方々を見送り、それからまた各々が片付けを始める。そこまでのチームワークがいつ培われたのか。自分も動きながら人の動きも見てのよね。得意な事を生かせるからいきいき動けるのよね。常々いい人間関係があるからだよね。手前味噌だけれど応援隊が誇っているこのチームワーク。大事な大切にしたい事です。

年が明け新年早々公開炭焼きが開催されます。炭材の竹も準備万端。オイル缶を使って一日炭焼きです。



黙々と活動の準備を進めるメンバー

一年間に何回かの炭を焼くため私の周りにはいつも炭があるけれども考えたらこういう機会がなければ、またお金を出して買わなければ炭は手に入りません。ここで焼く炭たちがもつとたくさん人の手に渡るように、炭の良さを知ってもらおうと考えて行かなければと思うのです。一年に一度の公開炭焼きですがここ牛久でも炭を焼いている事をアピールできればと思います。



チェーンソーで炭焼きの材料を切る

十二月十一日のムジナの里は落ち葉のじゅうたんに。風に吹かれてくぬぎやコナラの葉っぱがひらひらひらひら。もうすぐ厳しい冬の到来。でも炭材にするくぬぎを切るためにチェーンソーの音が鳴り響いたら何処からかスズメバチが飛んで来た。それも五匹も六匹も。音にびっくりして様子を見に来たのでしょうか。冬なのに。何処から来たのでしょうか。静かなムジナの里も見えないだけで小さい命がたくさん息づいているのですね。

もう十何年も通っている観察の森。よくここまで続いていると我ながら思う。楽しいから続いた。人との出会いは宝物。来年もまた楽しい事がたくさんありますように。



里山自然観察隊

本田 寛

モニタリング1000里地調査を実施

今月は十二月に実施した今年度九回目になるモニタリング1000里地調査(植物相)について報告します。実施日は十二月十日(土)。当日の気温は最低マイナス零度以下、最高十度程、霜が降り各所に霜柱が立つ厳しい冷え込み。天気は快晴、ほぼ無風。衣類を着込んで調査に当たった。参加者は三名。

午前九時、得月院前駐車場に集合。所定コースを調査。終了したのは十二時四十五分。刈込箇所もあり確認種数は減少。今朝の霜にやられた植物が目立つ。樹木の陰になる城中街道の山道では足が悴む寒さだが日当たりに出るとホットする暖かさ。

蕾を付けている野草は少なく実が圧倒的。だが春先に目立つオオイヌノフグリ、タチツボスミレ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザがもう花を付けていた。春から観察出来たハキダメグクの花もさすがに今朝の霜でダメージを受け、アメリカセンダングサ、ノゲシと共に萎れ黒ずんでいる。しかし、セイヨウタンポポ、オランダミミナグサ、ヒメジョオンは耐霜性を有するのが損傷を受けず蕾や花を付けていた。特に、特養施設元気館前の田んぼへの日当たりの良い土手に生えているセイヨウタンポポは先月来目立っていたが、当日も、黄色い花を咲かせ力強い生命力を示していた。コバルト色の果実を付けたナガバジャノヒゲが各所で観察できた。この実は数カ月間見ることができる。



アメリカイヌホウズキの葉は霜で萎れていたが濃紺色の果実をしつかり付けていた。さらに、稲荷神社から下った道



生命力に溢れたセイヨウタンポポ

路際では、カラスウリがアオキに絡まり双方大小の赤い実がお互いを引き立てている様子が綺麗だった。田んぼに隣接した湿地ではガマ、タコノアシ、ヨシの枯れ姿が目を引き、稲の切り株にバツクの斜面林の紅葉も加わり、初冬の里山の田園風景を演出していた。

緑色の野草は少なくなっているがヒガンバナの鮮やかな濃緑色の葉は際立つ。またシダ類は常緑のものも多く冬季の里山の日陰の緑を保持してくれている。とりわけリョウメンシダの優しいグリーンは気持ちを和ませる。加えて、牛久城址でフユノハナワラビを発見し感激。昨年は多数の株を観察できたが今年には初対面である。イネ科の植物は概ね枯れた褐色の種子を付けているが、スズメノカタビラに生き生きとした可愛い花を咲かせているものがあった。図体は小さいが年間を通して花を付けることのできる頑健な雑草だ。今回延べ約三百種の植物を記録。



第六回目

理事 平塚 芳雄

うしく里山の会に入会して六年

うしく里山の会に入会して早、六年目に。入会のきっかけは平成十八年三月頃の市報に掲載された牛久の樹木を調査するメンバー募集への応募でした。当時私は環境問題や地元歴史などに関心があり、霞ヶ浦環境科学センターでの講演会や自然観察会に参加したり、県南生涯学習センターで行われていた郷土史や地域環境に関する講座を受講していました。

樹木調査に応募したのもどちらかと言うと樹木そのものへの関心よりは自分の住む地域のことを知りたいという動機からでした。

樹木調査(巨木リサーチプロジェクト、巨木・古木・希少木リサーチ事業)では私は樹高の測定、樹木ガイドを主に担当しました。この活動に参加しなければ行けなかった所を訪ねたり、自分だけではできなかったことも行うことができ多くのことを学ばせて貰いました。的確な企画、指導の下のグループ活動の力を知りました。巨樹の生きる姿にも感動しました。今、私が世話人をしてる里山自然観察隊に関しては平成十八年四月の植物観察会が初めての参加でした。この時は城中・刈谷地区のいろんな場所(野原・林・空地・田んぼの畦・住宅街)でいろんなスミレを観察。それ以来、何気なく見ていた身近な草木を意識して見るようになった気がします。

樹木調査(巨木リサーチプロジェクト、巨木・古木・希少木リサーチ事業)では私は樹高の測定、樹木ガイドを主に担当しました。この活動に参加しなければ行けなかった所を訪ねたり、自分だけではできなかったことも行うことができ多くのことを学ばせて貰いました。的確な企画、指導の下のグループ活動の力を知りました。巨樹の生きる姿にも感動しました。今、私が世話人をしてる里山自然観察隊に関しては平成十八年四月の植物観察会が初めての参加でした。この時は城中・刈谷地区のいろんな場所(野原・林・空地・田んぼの畦・住宅街)でいろんなスミレを観察。それ以来、何気なく見ていた身近な草木を意識して見るようになった気がします。

樹木の知識が増え、名前が分かれば親しみが増し愛着が深まります。これまでの樹木調査、植物観察会等を通じ、樹木や森林など自然環境の問題を実感しました。管理放棄により荒れた山が多く、健全な山林の復活が強く望まれます。又、新住民には牛久は緑が豊かだからと移り住んだ人も少なくないのに、牛久の緑は減少しています。二十数年前山林が土地利用の三分の一以上を占めていたのに今は五分の一以下に。更に残念なことにプロジェクトで調査した市民の木の本数は、人の都合により既に伐採されています。市民の木のように多くの年輪を刻んだ切り株を見ると、数百年の時間が失われたように感じます。

しかし樹木や里山保全の有効な手立てがなかなか見つかりません。現在の経済社会では必要なこと、例えば山林の保全活動でも営利企業の事業としては採算が合わず継続的に実施することが難しい。NPO法人の様な形態で、有給の専門スタッフとボランティア活動の組み合わせで、採算性の壁を乗り越えなければならぬのだろうか。



住宅街に残った小さなクヌギ林



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」

では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。



一月の活動日時

六日(金)午前九時～十一時

十五日(日)午後一時～三時

(冬季のため時間短縮)

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

(予約不要/荒天時は中止)

ホームページに情報掲載)

持ち物 長靴、軍手(長袖、長ズボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

問い合わせ先 029-874-6600

担当:石神



牛久自然観察の森だより

チーフコーディネータ

齊藤 孝

上から下へ?・・・放射性物質の移動

これまで、本欄にて会員有志による園内の除染作業の進捗をお知らせしてきました。今回は最新の空間線量測定結果からの考察をお伝えします。

題名にもあるように「上から下へ」、つまり水が高い所から低い所へ自然に流れていくように、園内の様々な場所へ放射性物質が移動している結果が見えてきました。

牛久市役所による市内各所での測定同様、観察の森でも概ね数値が「緩やかに下がり続ける」傾向にあります。しかし、半減期を待たずして放射性物質が自然減衰している事は考えにくく、ある場所からある場所へ「自然の流れで移動」していると考えることが妥当だと思います。

園内では降雨時、至る所に水流ができ、川のようになっている箇所が多々見受けられます。場合によっては、その流れに放射性物質が付着した土砂が乗って、「行ける場所まで行く」状態になっているようです。

県道沿いの第二駐車場(現在除染の為閉鎖中)では、隣接する山(緑の保全区)から、雨のたびに土砂が流入し、アスファルトの窪地に溜まっていきます。それが乾燥して、濃縮された汚染土になっている様子で、一回土を取っても、またすぐに線量の高い土が溜まってしまいます。

全体としては「園内の空間線量は緩やかに下がり続けている」が、その一方で「新たな高濃度凝縮ポイントが発生している」、そのような予測に基づいて、これまで未測定だった箇所にも注目し、除染作業を続けています。

身近な樹木 No.10 ヤツデ



ウコギ科ヤツデ属の常緑低木で、本州(茨城県以南)・四国(太平洋側)・九州(南部)の海近くの林内に分布。日当たりの悪い森林のなかでも生育する陰樹。庭木として栽植され、園芸品種も出回っている。牛久では斜面の照葉樹林の下層やスギ・ヒノキの林内などに見られ、庭木としても利用されている。

高さは一〜三m、大きいものは五mになる。葉は二十〜四十cmの長い葉柄があり、葉身は円形で、深く五〜九裂する。若木では一般的に裂片が少なく、生長につれ多くなるが必ず奇数に裂ける。長さ幅とも十〜四十cmある大型で厚みがあり、深い緑色で光沢がある。裂片の縁に粗い鋸歯があり、先はやや鋭く尖り基部は心形。葉が大型で、天狗のうちわを思わせる独特の形(掌状)をしているので、よく目立ち見分けやすい。若枝は緑色、二年目の茎は灰白色で楕円形の皮目があり、半月形の葉柄が目立つ。



ヤツデの花 11.12.6

花期は十一月〜十二月で、写真のように枝先に大きな円錐花序を出し、各花柄の先に小さな白色五弁花を球状に多数つける。果実は球形で液果、径五mm程で翌年の四〜五月に黒紫色に熟し、果序は果実の重みで垂れ下がる。名前は葉が掌状に多裂することに由来する

(平塚芳雄)

2012年 1月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1 (元旦)	2 (振替休日) (休園日)	3 (休園日)	4	5	6 里山保全ボランティア 9:00NC クラブプロジェクト 13:00NC	7 雑木林応援隊 9:00炭屋
8 雑木林応援隊 (公開炭焼き講座) 9:00炭屋	9 雑木林応援隊 9:00炭屋	10 (休園日) (会報等原稿メ切り)	11 (休園日)	12 森の畑 9:30畑	13	14 里山自然観察隊 (モクク 里地調査) 9:00得月院
15 運営委員会9:00NC 里山保全ボランティア 13:00NC	16 (休園日)	17 森の畑 9:30畑 チーム' 街路樹20(受) 8:30ボランティアC (巡回管理)	18	19	20 クラブプロジェクト 13:00NC 巨木リサーチ2(特) (里山樹木編集委員会) 13:30ボランティアC	21 親子農業体験講座 9:00畑
22 雑木林応援隊 9:00炭屋	23 (休園日)	24 森の畑 9:30畑	25	26	27 会報発送 13:00NC	28 巨木リサーチ2(特) (巨木調査) 9:00アヤマ園駐車場 チーム' 街路樹20(受) 13:00ボランティアC (交流会)
29	30 (休園日)	31 森の畑 9:30畑				

活動日は天候等により変更となる場合があります。
最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

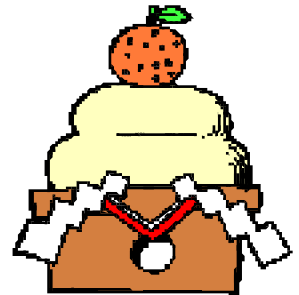
森：牛久自然観察の森
NC：牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P：牛久自然観察の森駐車場
炭小屋：牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑：牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジユケイ：牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑：牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ：結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所：牛久市役所本庁舎
市役所脇：市役所隣の近隣公園
ボランティアC：牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C：牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園：三日月橋観光アヤマ園

(休園日)：牛久自然観察の森休園日
(受)：受託事業
(特)：特別事業



編集後記

あけましておめでとございます。
会員の皆様も心新たに新年をお迎えのことと
思います。

今年「辰」年、辰は漢書によると「振・しん
(ふるう・ととのう)の意味」で草木の形が整った
状態を表わしているとされ、後に覚えやすくするた
めに神話上の動物である「龍」が割り当てられたと
あります。(ウイキペディア)

また、一月は別名「睦月」ともいわれますが、こ
の睦月の由来は親族・知人が一同に集まって仲睦ま
じくする月でもあるからとする説もあるようです。

私が作業しているアヤマ園も寒さが強くなり、早
朝は白く霜に覆われ薄く張った氷も見られるよう
になりました。そんな中で除草のため土を掘り返して
いると、「ケラ(バッタ目・コオロギ科)」が迷惑
そうに出てきます。場所によっては瑠璃色の小さな
昆虫の集団がみられます。「スジカミナリハムシ
(コンチュウ目・ハムシ科)」と見られますが確信
はありません。このように越冬している昆虫が多く
いますね。

昆虫の越冬の仕方を調べてみました。

越冬の仕方には

卵で越冬 ヤママユガ・カマキリ、コオロギやバッ
タは土の中に卵を産む。

幼虫で越冬 カブトムシは発酵して暖かい腐葉土
の中で、トンボのヤゴは温度差の少ない水底でジッ
としている。

サナギで越冬 チョウの仲間。秋に孵化した幼虫
がサナギになったものは春に羽化する(春型)。そ
して春型の小さなチョウが産卵し羽化した幼虫は
エサを多く食べ大きなサナギになる。これが羽化す
ると夏型の大きなチョウになる。

成虫で越冬 カメムシ・テントウムシの仲間。集
団で越冬するもの。落ち葉や土の中、樹皮などの隙
間で越冬する。

いずれにしても寝ているものを起こさないでそ
としてあげたいです
佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年2月号は1月27日(金)発送の予定です。うしく里山の会のホームページではカラーの会報
を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちして
おります。メールのアドレスは(u-satoyama@jcom.home.ne.jp)です。